

令和6年度第4回恵那市歴史資料館整備検討委員会

日時：令和7年2月21日（金）午前10時～

場所：恵那市役所西庁舎4A会議室

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事

議事1 歴史資料館整備基本構想（案）の確定について（資料1-2）

4. 閉会（副委員長あいさつ）

1. 開会

□事務局

おはようございます。朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより、令和6年度第4回の恵那市歴史資料館整備検討委員会を始めさせていただきます。本日、委員さんは全員出席となっております。

では、教育長よりごあいさつ申し上げます。

2. あいさつ

□教育長

本日は、本当に貴重なお時間をいただきありがとうございます。最初に、委員長の可児さんが、岐阜新聞大賞を受賞され、誠におめでとうございます。また、そういう方に関わっていただけて、本当にありがたいと思っています。

先ほど、課長からも話がありましたように、4回目ということですが、その間でいろいろと案を見ていただいたり、ご意見をいただいたりってということで、実質は4回では済んでいないと思いますが、今日やっと最終案ということで、まとまったものをご検討いただき、これから議会とも話していくわけですが、もっと先のスケジュールを見ますと、まだ5年や6年とか形を見るまでにかかりそうなところで、担当者に聞きますと、ここにおみえの方、できるだけつき合っていただけるということで、長く関わっていただけの方がほとんどではないかなと思っていますけれども、ぜひいいものをつくりたい。そういう中でそれぞれの立場から、鋭いご指摘やら、新しいアイデアをいただいてですね、誇れるものになるといいなということを思っておりますので、ぜひお力をお貸しいただければありがたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

□事務局

教育長は公務により退席させていただきます。続きまして可児委員長よりごあいさつを

いただきます。

□委員長

皆さん改めましておはようございます。今日は第4回目の整備検討委員会ということで、お疲れさまでございます。今まで4回といいますか、書面審査を含めて4回ですかね。今まで3回ほど審議いただきましてありがとうございます。皆様方のいろんなご意見や提案によりまして、一つの形が出来てきたなと思っています。これまでご努力いただきました委員の皆様それから事務局の方々にお礼申し上げたいと思います。ただ、これは終わりではなくて、これから始まるスタートのことだと思いますので、今日ご審議いただきまして次につながるご意見等をいただけたらありがたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

3・議事

□事務局

委員長ありがとうございます。それでは議事に入ってまいります。議事進行を委員長よろしく願いいたします。

□委員長

議事は、基本構想の確定ということでございます。事務局のほうからご説明よろしく願いします。

□事務局

それではまずお手元の資料ですけれども、資料1としました基本構想(案)。資料2としました書面審議のご意見をまとめましたものを報告しますのでお願いいたします。

また、本日の会議ではございませんけれども、お手元にパンフレットとリーフレット、2種類を配布させていただきました。一つは、今整備を行っている「佐藤一斎學びのひろば」の印刷物ができましたのでお配りしました。これについては、以前の委員会で配りましたこちらで印刷しましたものと内容的には同じものがございますのでお願いいたします。もう一つは、またこれも全然関係ありませんが、恵那北中学校の生徒が作りました、地元の域にまつわる伝説をリーフレットにまとめましたものになります。こちらは、毎年私が授業補助ということで、応援というか支援に入っておりまして、今年の生徒さんは地元の地域事業と共同してまとめたものになります。全員が女の子という珍しいクラスでして、新しい資料館では、こういった活動もしていければなというふうに思いまして、いただきましてお配りしました。

では本題に入らせていただきます。資料1の基本構想(案)でございますけれども、前回の会議の後、書面で2回お配りをいたしまして、お目通しをいただきました。そのうち12月26日に配付しました分につきましては、回答いただいたものをすべて反映いたしまして、次の分にしております。2月10日付けで再度それを配布いたしまして、個別意見につきましては、この中で、赤で見え消しにて修正をしております。資料2のほうのご意見欄の色をつけ

たものが、2月10日の分に対するご意見になりますので、よろしくお願いをいたします。

内容につきましては、既にご覧いただいておりますので、ここではちょっと割愛をさせていただきます、直接のご審議をいただければいいのかなと思っておりますけれども、この中で特にご審議をお願いしたいと思っておりますのは7ページにあります、基本理念のキャッチフレーズでございます。この部分につきましては、第2回の会議で、「地域の資産」という部分を読み替えた方がいいというご意見を頂戴しておりましたけれども、この議論が進むまで保留の状態にしておきました。今回この部分についてご審議をいただきまして、いいものになりますように、ご提案をいただければと考えておりますのでよろしくお願いをいたします。こちらのほうからの説明は以上でございます。

□委員長

ありがとうございます。今日はこの資料1の内容についてもうちちょっと皆さん方のほうから、いろいろご意見など、提案までいただければよろしいでしょうか。今事務局のほうから説明がございました。資料2に、修正部分についていろいろ細かく記載ありますけれども、いかがでしょうか。もう既にざっとご覧いただいている部分があるわけですけど。

□委員

7ページの基本理念の指摘をしたのは私なのですが、代替案として「地域の遺産」という言葉を「多様な歴史文化」に置き換えてはみたのですが、これについてはその遺産というものを未来に伝えるのか、それとも歴史文化というもの自体ではなくて概念も含めて未来に伝えるのかということで、置き換える単語によってちょっと基本理念の目指すものっていうのが変わってくるかなと思いますので、そこら辺の意識のすり合わせが必要なのではないかなと思います。

□委員長

ありがとうございます。今のご発言は、資料2のほうに少し書いてありますけれども、「地域の遺産」という言葉について、先ほど三宅さんのお話にあったように、「地域の遺産」を「多様な歴史文化」という言葉に置き換えたかどうかというお話が出ていたのですがいかがでしょうか。「地域」という言葉が二つ重なっているので、一つにした方がいいと思うんですけども。

□委員

「多様な歴史文化」は、取りあえずこの資料の中に出てくる単語を持ってきたという感じで、そこまで私自身にこだわりがあってこの言葉を提案したというわけではないので、もうちょっとコンパクトな言葉ですとか、ちょっと長くなってしまいますので、何かあれば、こちらのほうが良いかもしれません。

□委員長

遺産っていう言葉がよく使われますけど、僕としては取り残されているもののイメージがあって、歴史文化だともう少しそれが発展するような可能性を秘めているような言葉にも感じるんですけども。これは感覚的なものですけども。世界遺産とか使われているので、

特に問題ないと思うのですが、ここをどうするかっていうことですね。

□委員

言葉だけの問題なのですが。「今」っていうのがついていますよね。だから、「今」と対応するものが必要なので、「地域の遺産」っていうのは、過去のものじゃなくて、今残っているものですよね。だから「今」っていうのも書いた方がいいのかなと。「歴史文化」というのはいいと思うのですが、「歴史文化」というものを過去のものとするのか、現在に伝わっているものをすべて含めて「歴史と文化」というふうにやれば別に「今」と入れなくてもいいのかなと思う。

□委員長

過去のもの「今」は両方併記するから、あえて「今」と「遺産」が並んでいて不満がないわけですから。

□委員

だから「地域の歴史と文化」ぐらいだと、「今」はなくてもいいかなっていう感じがしますが、ただ「歴史と文化」だけでいいのかっていうのがありますので。

□委員長

そこに「今」っていう言葉が入っていて、歴史文化じゃない今のももっていうことも入っているかもしれません。

□委員

「歴史と文化」っていうのは分かるのですが、それだけでいいのかっていうところはございます。

□委員長

「歴史文化」って言うてしまうと歴史系のもになってしまうけど、「歴史と文化」にすると歴史は過去のもの、文化は今も含めたっていうふうに、言葉としては使えると思うのですが。「今」っていう言葉についてのイメージっていうのは三宅さんどうでしょうか。「地域遺産」と「今」というのは。

□事務局

「今」というのは本当に今の時点で、なかなか歴史にもなっていないような、混沌としたという言い方は変ですが、そういったものを私としてはイメージしておりまして、一番タイムリーなものですとコロナ禍でさまざまなことが起きましたけども、こうしたものを記録にとどめていくのも、こういう資料館の役割ではないかと思えます。それを一つの文化とかいう単語でくくってしまうのかというところとちょっと違うのかなと思って、「今」というようにさせてもらったのですが。

□委員

単純に「過去」としてしまった方が良くも。「過去と今」にしてしまつて。

□委員

やっぱり地域ということで、いろいろな過去にあった様々な地域ということ強調した

いのですよね。

□委員

分からないのですが、コンセプト自体が、一番中心になるコンセプトが何なのかっていうのは分からないのですが。今言ったように、例えば今の話聞いていると地域をつないで地域らしさ、あるいは多様な文化を未来に伝える博物館っていうこともあるのですが、その青に書いてあるところが、僕自身はすごい、気になるわけではなくて、伝えるだけの役割だけなのかなあと。例えば僕らのほうの町の者からいうと、そこにあるだけで、置いてあるだけのような形のやつは、ひどい言葉で言うと役に立たないと。だから少しでもまちづくりに連携して、そこから発信するっていうよりも、その情報をもって地域がそれを磨いて、例えば交流人口につながっていくとかいうような形で伝えるとなると、学者がそこにおいてじっとして、よく僕らはひどい言葉でいうように、あなた学者になっているのであかんわ、全然行動してないと言うのですが。そこら辺の部分で今、この辺を伝える、そう深く考えるとこれが決まらなくなってしまうと思うのですが。願いとしては、できるだけなのですかね。三学の言葉にあるように「いかす」っていうようなことがあってくれるといいなどは思っているのです。そこがこういう形の情報発信してくれて、おかげの形の部分があるぞとか、余計面倒くさいこと言ってすみません。

□委員長

今「いかす」という言葉が出てきまして、皆さん納得されているのですよね。やっぱり歴史っていうのは、振り返るだけじゃなくて、未来のためにあるというか、何か未来を考えるキーになる鍵になるものが歴史だと僕は思ったのですが。だから、「今をいかす」というのはいいかなと思ったのですが。この7ページの今のこの表の下に三つ丸点があって、今おっしゃったところは二つ目のところに関係すると思いますけども、市民が共有する恵那市の誇りとして価値を高めていくっていう言葉につながるような言葉が、「いかす」という言葉に関係するのかなと思うのですが、どうですか。

□委員

例えば、「今」「地域の遺産」というものを、「地域の遺産」「歴史遺産」というふうに変えて、「地域の歴史遺産と文化」にして、「今」を取っちゃって、「未来にいかす博物館」と、そんな感じでいかがでしょう。

□委員

基本的にはすごく賛成なのですが、歴史だけに「遺産」をつけると、なんかちょっと歴史遺産っていうのが、いろいろ使われていますがはっきりしないところもあるので、とりあえず「遺産」はなくても。いかすほうは「いかす」とか「つくる」とかそれはすごくいいなと思うのですが。「遺産」はいるのでしょうかね。

□委員

「遺産」というのが何か過去に残されたもの、そういうものに限定してしまうような感じがあったので、だから歴史遺産と単純に思ったわけですね。

□委員

地域づくりのキャッチフレーズは、歴史文化も何もかも含めて地域資源をブラッシュアップしていかすっていうふうにはしているのです。だから、どんなものも地域の資源だっていうふうに捉えて、歴史がどうのこうのっていう問題じゃないんだ、これをどうやっていかすかと、何かにかせるかっていうことがまちづくりで一番大事なので、そこに集めたものが、岩村町だとどういうふうにかかしていけるのかっていうことを、考えるきっかけの拠点施設であってほしい。

□委員

今言ったことはよく分かります。いろんなシーンという形はあるけれども、もとが歴史資料館というのが一つの、何ていうか、全国的に見て、歴史資料館って聞くと歴史資料かなという思いですよ。それくらいの思いがあるのですけれども、その中でやっぱり歴史というのは入れたほうがいいのかなと思います。

□委員

個人的に、「歴史文化風土の流れを生かす博物館」みたいな格好で。「今」を取っちゃって。

□委員長

キーワードとして歴史と文化と風土。

□委員

岩村はどっちかっていうと風土、昔からの流れの風土を大事にしているところがありますので。

□委員長

最近結構、歴史資源とかそういう言葉が、ここ10年5年は資源という言葉を使うようになってきましたけど。

美濃加茂は、たまたまですけど文化財保存活用計画を今年までつくっていて、その中で、いわゆる指定文化財というものもありますけども、それに限らずいろんな歴史資源があるので、それを包含して地域文化資源という言葉に変えて、あえて文化財って言葉は使わないようにはしているのですけども。ただ、あまりにも資源って言葉が大き過ぎて、ちょっとつかみどころがないというのも一方であって、両方の意見がやっぱり出ましたね。でも最終的には資源という言葉はすべてだから、分かりにくいけどもということで収まったのですが、本当言葉は難しいなってことはとても思っています。

「今」っていう言葉について、いろいろについてはですね、やっぱりその辺は、ちゃんとしたお考えがあると思うのですが。さっきおっしゃったような話ですかね。

□事務局

「今」は、さっき言ったようなことで思っているのですけども、それが今のお話で風土とか文化という言葉で読み換えるのだったら、それはそれでこだわりはありません。

□委員長

先ほどの資料にもあったように、いろんな思いですけど、文化とか風土とか歴史とか遺産とか言葉があるんですけど、そういうものを包含して、「多様な歴史文化」という言葉にして、「今」を取って「未来にいかす」としたらどうでしょうか。

ちょっと言ってみると、「地域をつなぎ、多様な歴史文化を未来にいかす博物館」。おかしいですかね。

□委員

「歴史文化」とつながると、さっき言ったように歴史に限定されるような話があったので、中黒を入れては。

□委員長

「歴史と文化」ですね。

「地域をつなぎ、多様な歴史と文化を未来にいかす博物館」。何か引っかかりますか。

さっき「伝える」という言葉について、少し前向きな価値づけやいかす言葉があるので、その辺はいいですかね。

□委員

「いかす」はすごくいい。漢字ですか。

□委員長

漢字は生きるか活動するか、ひらがなか。ちょっとイメージが変わりますね。

「地域をつなぎ、多様な歴史と文化を未来にいかす博物館」。どうですか三宅さん。

□事務局

今の方向性から言うと、生かすより活用かなと。活用の活の漢字がいいのかなと。

□委員長

いろいろありますけど、「多様な」という言葉でまとめてしまうことになってしまうのですけれども、「地域をつなぐ」ということにそもそも、多様なという観点があると思うので、それをさらに強調するという意味で、一つのキーワードとしてあってもいいかなと思いますが。

□委員

風土は文化で吸収するっていう形ですか。

□委員長

そうですね。文化の中に風土があるっていうことで。

□委員

なかなかキャッチフレーズは長くしづらいので、「風土」という単語とかも、下の説明書きのところにどこかに入れられるようであれば、必要なことだと思いますので、ちょっと入れたら、よりキャッチフレーズに深みが出ると思います。

□委員長

下の三つの説明書きのところに、「風土」という言葉を入れていただけると。

□副委員長

今お話を伺っていてすごくいい形でまとまってきたと思っています。私自身ちょっと感覚的なことでちょっと迷いがあって、この地域の遺産という言葉、ローカルヘリテージって外に対する言葉としてはすごくキャッチーでいいかなと思ったのだけど、ただ、地域地域とつながるので、このあたりどう消化したらいいのかなと思ったのです。今、皆さんのお話聞いて、すごくいい形でまとまったのかなと思っています。下のほうにも地域遺産という言葉がありますので、その辺りで生かせればその辺りで良いかなと思っています。

□委員長

二つ目の、「合併して」というところの中に、「保存継承に取り組み、地域の風土や遺産」とかそういうような言葉、「風土」という言葉どっかにぜひ入れていただけたらと思います。

この言葉はこれから、今日は基本構想ですけども、これからのいろんな基本計画の段階でもまた出てくる言葉になるので、皆さんご意見いただいて、変わることはないと思うんですけども、この下にどういった、もうちょっと具体的なミッションとか理念とかの中の柱になってくると思います。もう一度ご確認といたしますか。よろしいでしょうか。

それでは、今日の1番の議題っていうのはここになるのかなと思うんですけど。よろしいですか。

□委員

もうここで、基本構想は確定ということになるのでしょうか。実は私も幾つか修正案をお送りしたつもりだったんですけど。反映されてないようなのでどういうことかなど。いくつか、てにをは部分で直すべきところが見受けられる。パブコメに出すと恥ずかしい内容になるので、そこは絶対直してほしいなという箇所があります。例えば3ページの(1)施設の老朽化の箇条書きの3つ目、「バリアフリー対応に限界がある。特に構造上二階展示室の車椅子での入室するリフト等を設置することは困難である。」と意味が伝わらないです。私は、「構造上二階展示室に車椅子で入室するリフト等を」というふうに、細かいところを幾つか出したのです。ちょっとその辺りはパブコメを出す前には、きれいにしてほしいなど。それと、8ページの(3)展示・公開の方針。「NEXT GIFU HERITAGE～岐阜未来遺産～」岩村フィールドミュージアムとあるんですけど、岩村フィールドミュージアムっていう表現は、未来遺産では使ってないです。岐阜の宝ものっていう段階で使っていただけで、未来遺産としては違う名称でやっていますので、ここはもう消してほしい。あと9ページに図がありますが、このサイズで出しますか。小さくて読めないですよ。もし、この形のまま出すのならもっと大きくすべき。他に7ページの図もそうなのですけど。見てもらおうという観点ならもっと大きくすべきだと思います。あと13ページのスケジュール。左にはみ出ていますが、これどういう形で展開するつもりか分かりませんが、もし冊子にするなら、ここは綴じ代で見えなくなると思います。なので、別に1行にこだわらなくても、2行3行に分ければいいので。また、同じことが書いてある月はわざわざ4, 5, 6, 7月と並べなくてもいいと思います。そこは工夫して左側そろえて欲しいです。以上、よろしく申し上げます。

□委員長

細かい指摘がありましたけど、その辺修正をお願いしたいと思います。

その他ありませんでしょうか。

以上で皆さんのご意見も出ましたので、これで確定ということで進めていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

では、事務局にお返しいたしますので、今後のスケジュールをご確認していただきたいと思います。

□事務局

今後のスケジュールについて説明いたします。

今回いただきましたものを手直しいたしまして、パブリックコメントを3月3日から14日までの予定で行うこととしております。手法としましては、お知らせにつきましては広報えな3月1日号に掲載をいたしまして周知を図るほか、市のウェブサイトでも紹介をいたします。コメントの方法ですけども、ウェブサイト、それから市政情報コーナーと文化課に閲覧用の印刷物、ウェブサイトの方はPDFになりますけども、見ていただき、それに対する意見を、文書もしくはウェブサイトに設けました応募フォームに投稿していただくという形になります。その後、議会説明となりまして、恵那市の議会では、毎月1回、全員協議会という情報の共有をする場がございますので、そちらのほうに提示をいたしまして説明を申し上げます。そのあと3月26日に開催します教育委員会の定例会の議案として諮りまして、正式に教育委員会としての基本構想をここで確定する。ということになります。

ここまでは本年度で、来年度につきましては、基本計画の策定を1年かけて行うということです。基本計画につきましてはコンサルタントの事業者も入れますので、その業者選定を5月までに行います。それを受けまして、第1回の委員会を6月に行いたいと思いますのでよろしくお願ひします。そのあとのスケジュールについては、この構想案についております表のスケジュールのような形で、来年度も数回の委員会をお願いしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

それから手直しを幾つかいただきました。この件につきましては、直したものを委員長一任で修正許可をもらいたいですがよろしいでしょうか。修正したものをまた可児委員長と協議いたしまして、確定いたしましたら事前にメール等で送付いたしますのでよろしくお願ひいたします。以上でございます。

□委員長

ありがとうございます。ちょっと時間ありますね。この佐藤一斎のほう、少しご説明いただけたら。関係しますので。

□事務局

それではお時間いただきましたので、お手元に配布されましたパンフレットを元に概要を説明させていただきます。

冒頭に話がありましたように、紙の資料としましては皆さんに見ていただいているものでありますけども、さきの12月議会におきまして、条例を制定させいただきました。そこで、

施設の名称としては「佐藤一斎學びのひろば」ということで条例上に明記しております。ということで學びですとか、先ほど基本理念で表現のことがありましたけども、こちらにつきましても「學び」を旧字体の「學び」にしておるといようなことで、字の成り立ちが、みんなが集い學び合う、指導者の先生と子供たちとがお互いに学んで切磋琢磨するといような字の成り立ちがありますので、旧字体の「學び」を使っております。「ひろば」としましたのは、ここが身近なところとして、敷居も低く垣根を取っ払って誰でもお越しいただけるようにということで、「ひろば」ということで表記を平仮名で柔らかい表現にさせていただきました。

めくっていただきますと、2ページは、目的と役割、期待される効果ということで書かせていただいております。これはもともと、地域との方々と協議を重ねまして考えてきたところになります。

3ページの利用案内のところです。こちらは条例で定めまして、有料の施設と考えておりますので、入館料としましては、一般個人500円、団体20人以上が400円、18歳以下が無料、団体も無料といようなことです。こちらは指定管理者による管理運営ということで、正式には指定管理者がこの料金を定めていくということで、これは上限ということで、お示しをしておりますので予定とさせてもらっています。休館日は水曜日ということにしております。あと年末年始です。開館時間は午前9時から午後5時までになります。

場所と施設の中の位置としましては、1階の西側部分に「佐藤一斎學びのひろば」、また同時に整備をします恵那市図書館分館、こちらのほうを1階の東側フロアを使ってまいります。2階のほうには、現在ご検討いただいております歴史資料館が次期整備ということで予定をしております。

4ページ5ページ目には、主な展示構成ということで、こちらは立体図とそれぞれの主だった各スペースコーナーのイメージ図をつけさせていただいております。立体図の⑧と書いてあるところが出入口になります。順番に①がシアターになりまして、こちらでは佐藤一斎の生き方や教えを映像で体感をしていただくといところになります。②③のところ、言志四録の展示と、言志四録の言葉があります。④のところでは、AIの技術を使いまして、佐藤一斎先生に相談をしよう。話しかけてみようのところ、ご相談をすると佐藤一斎先生が言葉を授けてくださるといような、そんな体験の場を考えております。⑤に展示ケースを設置しまして、掛け軸ですとか書物、そういったものを展示していく。⑥のところは、親子でもくつろいで楽しんでいただくように、ここに一斎関係のカルタですとか、絵本ですとか、そういったものがありますので、場内で遊びながらそろえていただくといようなコーナーです。⑦は、一斎碑文ギャラリーということで、岩村町内、町中に碑文が所々にあります。ぜひ、城下町にも足を運んでいただいて、碑文巡りをさせていただくことも一つのコースになり得るかと思いますので、そういった紹介もしていきます。いような全体の構成で考えております。

6ページ7ページは佐藤一斎の人物のご紹介になりますので、お読みいただければと思

っております。

1番最後のページは恵那市の紹介ですとか、岩村の紹介になります。この歴史資料館の基本構想にもありますけれども、やはり全体を学ぶ拠点施設と位置づけておりまして、そこから城下町にも足を運んでいただいて、地域の交流人口の増加ですとか、地域の活性化、そういったところにつなげていきたいという施設として整備を進めております。

現在は改修工事を行っております、今年の6月末までを工期としております。改修工事が終わりました、この「学びのひろば」の中の内装の部分には展示の施工業者が別に入りますので、そこで内装仕上げをしていただいて、10月のオープンに向けて進めるというところになります。

ぜひ、開館に向けた準備もご支援願いたいと思いますし、開館後もご指導いただければと思っておりますのでよろしくお願いします。以上です。

□委員長

説明ありがとうございました。さっき聞き逃したので、学ぶっていう漢字についてこだわりがあるとおっしゃいましたけど、ちょっと教えてください。

□事務局

そうですね、旧漢字の学びということで、普段は使わない漢字になるわけですけども、この字の成り立ち、この特にこの上のですね×といいますか、カタカナのメと言いますか、ちょんちょんと並んでいる、ここら辺が、一つのところにみんながより集まって、そこで学び合う。指導者と子供たちとか、指導者の指導によって子供たちがそういうふうに変化していくといいますか、学び教えるを通じて成長していくというような、それがこの形になっているということで、常用漢字ですと冠が点点点になりますけども、あえてこういった画数の多い旧字体を使うことによって、その意味を持たせるということにしています。

□委員

教えてもらいたいのは、2階にどこから上がっていくのか。外側から上がっていくのか中側から上がっていくのか、どういう設計になっているか聞きたい。ここだけなら、別に連携する必要もないので、下のところの部分とどうやって引っかけていけるのかなっていうようなことが一番知りたい。

□事務局

全体の平面図がないので、ちょっとイメージしにくいですけども。4ページで言いますと、⑧の入り口ゲートがあります。ここの手前部分がエントランスのロビーになっておりまして、正面玄関はこの⑧の左側あたりの位置になっております。玄関をさせていただくと、受付があって、ミュージアムショップがあって、エントランスホールを通り抜ける形で、突き当りに2階に上がっていく階段とエレベーターがあります。そちらで2階に登っていただいて歴史資料館に入らせていただくっていう動線になります。

□委員長

ちょっと分からないけど、⑧から中に入るの。

□事務局

⑧の手前ですね。⑧の前のところがエントランスホールになっていまして、そこを⑧の右下の方角になりますけども、ホールを進んでいただいた突き当たりにエレベーターがありますので、2階に登っていくという形になります。これは今後の運営の話になりますけども、受付ですとかミュージアムショップは、2階との合同といいますか、一緒にということもあり得るかと思しますので、そういった位置関係になります。

□委員長

無料空間はないということですか。

□事務局

無料空間は、この⑧から入ると有料になるので、この外側が無料空間です。

□委員

最近外国人からアンケートをとっているのですが、佐藤一斎の木版を写真にとると英語に訳せるみたいで、すると何を書いているかわからんという意見が出てきているので、そのあたりを工夫していただくと今後ありがたい。結構外国人の方が興味持っていていろいろやってみえる。QRコード読んでも分かってこない。ちょっと言葉が難しすぎる。

□委員

僕が思うのは、1階だけ見せられると、2階の俺たちの話はどうなっちゃったのかと思う。当面仮のパンフレットだと思いますけど、このところから2階がこういう風になっていきますよとなっていないと、話し合っった施設はどこへ行ったのだ。それから、これ岩村の人たちを頑張らせるために作っているの、階段は別にしたほうがいいじゃないのとか。そういうふうな感じになっちゃうのでは。

□事務局

階段は別じゃないです。

□委員

いやいや、外から入っちゃう。もう二階に。

□事務局

こっちが玄関です。受付がこのあたり。ここはホールになっているので、2階への動線はここをまっすぐ突き当たって行って、ここの階段かエレベーターで上がっていただくということを考えておまして、ここらあたりの動線をどう整備して、上にスムーズに上がっていくようにするかというのは、設計の中で、来年度以降に考えていきたいということです。

□委員長

左側の上が展示室になるのですか。

□事務局

左側の上、これの2階が展示室になります。こちらが今想定しているのは、いろんなガイダンス施設とか、セミナールームとか、こちらの側の半分に市の図書館の分館をつくる。無料空間ですね。こちら側が展示等で、こちらのほうが、収蔵庫やスタッフルームにと考えてお

ります。

□副委員長

せっかくなのでもう少し教えてもらいたいのですけど、これ指定管理はもう決まっているのですか。

□事務局

こちらはですね、市の内部でまず検討しまして、予定としましては6月の議会で議決をいただく予定です。

□副委員長

どちらにしても非常にレベルの高い展示になると思うのです。なるべく幅広くいろんな方々に分かっていただくためには、恵那市さんももちろん頑張っていただかないと駄目なのですけども、ここに書いてあるとおり、地区の運営協議会さんとか、NPOさんとか、それはもちろん指定管理さんとかで知恵を出していかないと、なかなか一般の方500円の入館料だと、なかなか気軽にぼんと入ろうかっていうのは努力が結構必要だと思いますので、またその辺りのお考えいただけたらと思います。

□委員

細かいことですが、5ページの⑧入退場ゲートの写真ですが、プレートが佐藤一斎記念館になっていますので、これは「佐藤一斎學びのひろば」に直して欲しい。

□事務局

こちらの方も更新をしながらつくっていきこうと思います。また直します。

□委員

パンフレットに関してはですね、これが今回できました。今度、歴史資料館ができます。全部ができた後には全部を合体したパンフレットをまたつくるという計画です。

□委員

名前も全部決まっちゃっているわけやね。「佐藤一斎學びのひろば」っていう。

□委員

違います。ここのエリアだけがその名前で、歴史資料館だよ。図書館だよっていう。それぞれで、いわゆる複合施設になりますので、それは全体を通しての総称っていうのは、それをつけてしまうとかえって分かりにくくなるので、今のところはつける予定はないです。

□委員長

それぞれで条例をつくるという。

□委員

はい。それを全部まとめたもののパンフレットは考えています。

□委員長

ほかご質問よろしいでしょうか。それでは閉会にさせていただきます。

3. 閉会

□事務局

ごあいさつを山田副委員長からお願いします。

□副委員長

第4回目の整備検討委員会という形で開催していただきありがとうございます。これまでの委員会の進め方を見ると本当に恵那市さんは丁寧にやっておられて、感服します。と言うと言い過ぎかもしれませんが、本当によくやっただいております。おざなりじゃなくてきちんと我々委員との間でもキャッチボールしていただいていることを感謝申し上げます。引き続きまだまだ課題等はございますので、お互い知恵を出し合っていきたいと思っております。よろしくお願いします。

□事務局

ありがとうございました。本年度の最後になりますが、令和6年度第4回恵那市歴史資料館整備検討委員会を閉じさせていただきます。